

## スタッフインタビュー

### K. N

- ・ 史跡名勝分野
- ・ 2024 年入社／新卒採用
- ・ 地域環境科学部造園科学科 卒



### 偶然から未知の分野へ

幼少期から自然が身近にある環境で暮らし、将来は自然を生かした空間づくりをしてみたいと感じ、大学では造園学、空間設計、都市計画を学びました。卒業研究では文化的景観を活かした空間づくりと題した研究をしていましたが、あまり深く文化財には触れてきておりませんでした。就職活動真っ盛りのころ、学芸員実習にて訪れた考古博物館に偶然弊社の携わった整備事業の報告書が置いてあり、会社のことを知りました。その後採用面接を経て史跡・名勝分野担当として業務に携わっています。

卒業研究でこそ文化財を取り扱いましたが、入社前は基礎中の基礎のような知識しかありませんでした。そのため業務のあらゆることが新鮮で勉強の毎日を過ごしています。特に特徴的だと感じたのは、設計の考え方です。史跡の多くは地下に存在するため、それらの遺構を傷つけることの無いよう、発掘調査などからの情報をもとに空間を作り上げていくのは文化財ならではの面白い点だと感じています。

### 歴史を活かす空間づくり

入社してから現在まで主に史跡の設計及び工事監理の業務に携わっています。学生時代の演習では簡易的な調査と設計までで、自分の中だけで完結していました。しかし、実際の業務では多様な角度からの意見を図面に入れていく必要があります。史跡地の多くは文化財が眠っている土地であり、公有地であることも多いため、設計にあたり様々な制約や条件があります。遺構保護のための掘削制限、遺構を活用した設計、公有地としての公共性やメンテナンス性の維持……。あらゆる角度から空間を考え、最適解を提案するために模索することは時に苦労も多いですが、自分の設計がその土地の歴史を守り、さらに次の世代へと受け継ぐお手伝いができることはとても魅力的に感じています。

### さまざまな時代の史跡に触れ、新たに広がる世界

史跡と一括りになっていますが、縄文時代の遺跡から近代の戦争遺構まで幅広い年代の史跡が存在します。時代や用途によって個性の異なる史跡を設計するにあたり、初めて触れる分野であることも少なくないため、現地の資料館や発掘報告書で勉強することが多々あります。自分の知らなかった知識に触れ、知識から自分の中で新たな世界が広がっていく感覚を覚えるとき、この仕事へのやりがいを感じています。業務としてかかわった史跡はまだまだ少なく私自身未熟だと感じることも多いですが、経験や知識を積み、様々な分野を跨いだ業務に携われる技術者を目指して日々頑張っています。

## 自分を出しやすい職場

学ぶこと、挑戦することをしやすい環境だと感じています。異なる専門性を持った社員が集まっているため、業務の中でわからないこと、初めてのことがあっても一人で抱え込まずに気軽に相談ができます。昨年からは社内若手のサポートをするグループも立ち上がり、入社直後の不安な時期を支援する体制も整いつつあります。また、意見を具申しやすく、合理性があれば役職に関係なくプロジェクトの提案もできます。尻込みすることなく挑戦しようとするれば背中を押してもらえる環境だと感じています。

オフィス内ではフリーアドレスを採用しており、社内の好きな場所で仕事ができます。私は一人で作業に集中したい時と相談しながら作業を進めたい時でそれぞれお気に入りの席を作っています(笑)



お気に入りの窓際席

## 仕事を趣味に

繁忙期は残業することもあります。比較的自由なスケジュールで業務をさせてもらっていると感じます。フレックスタイムにより出退勤時間を調整できるため、ちょっと早起きして早めに帰宅することもできます。有給休暇も好きなタイミングで取得できるため、疲れている週は三連休を作って自分なりにリフレッシュできるように心がけています。

図面を描く（と言ってもラフスケッチ程度ですが）のが好きなため、休日は図面の構想を練ったりアイデアを見つけるためにまちなかをお散歩したりしていることが多いです。入社してからは勉強もかねて史跡や文化財を見に行くことも増えました。行ったことのある場所でも設計者の視点で見たり文化財の視点で見たりと多様な角度から鑑賞できるようになり、お散歩の楽しみが増えたなと感じています。



夏休み休暇で訪れた仙巖園（鹿児島県）

## 学ぶことを楽しむ

当社の業務は、設計技術だけでなく文化財の知識や保全の考え方を常に学び続ける必要があります。文化財の世界は奥深く果てしないため、どこまで行っても初めてのことが現れる世界です。逆に言えば、どこまでも探求し、知識を積み上げていける世界でもあります。古き良き文化を守り、常に自分にとって新しい世界に貪欲に向かっている方に向いている世界ではないかと思えます。